

## 稲 WCS 生産の高品質化と利用の省力化

東近江農業農村振興事務所農産普及課

### 【普及活動のねらい・対象】

東近江市五個荘地域では、平成21年度から集落営農組織や認定農業者を中心に、麦跡の稲 WCS 生産を進め、平成23年度は他地域への供給も含め約25haの稲 WCS の作付が計画されました。今後継続的な取り組みとするためには、ほ場間での品質格差を縮小させ、良品質安定生産を確立することが必要なことから、その対策について支援を行いました。また併せて、今後も安定的な需要を確保するため、酪農家の給与作業の実態調査をとおり、課題となっている給与作業の省力化についても検討を行いました。

### 【普及活動の成果】

稲 WCS の品質低下の発生要因の分析と対策を検討するため、現物調査や保管状況を確認しました。その結果、原因は主としてカビの発生であったことから、栽培から収穫・保管まで作業改善ごとに改善策を提案しました。

栽培研修会では、栽培管理に関する対策を重点に置いて研修を行いました。特に、土の混入を防ぐため乾田化の徹底と倒伏防止対策については情報紙を配布し、適期作業の推進に努めました。また、収穫に関する対策については、コントラクター組織を対象に収穫前研修を行い、収穫調製のポイントについて確認しました。

さらに、仮にカビが発生した場合には、原因調査ができるようロールベールにナンバーリングを行うこととし、事後でもほ場特定ができるようにしました。

これらの取り組みにより、栽培者や機械オペレーターの意識が向上し、雑草対策や乾田化対策等の高品質生産が行われるようになりました。

給餌については、300kg程度あるロールベールの取り扱い方法が課題となりました。そこで、五個荘地域内の酪農家で実態調査を行い、他の事例紹介を通して、改善点について酪農家とともに検討を行い各戸の既存の機械をできるだけ利用した形で、少しずつ改善することができました。今後も需要拡大と安定供給の両面から県内産飼料自給率向上に向け取り組んでいきます。



収穫・調製研修



ロールベールにナンバーリング



給与作業の実態調査